

いりよの ひろば

Vol.
204
2013.9.25

■1面 胆石症について

■2面 緩和ケア外来スタート
ほか

■3面 地域医療連携
「吉田耳鼻咽喉科医院」
Q&A

■4面 高槻病院救急隊員勉強会開催報告
ほか

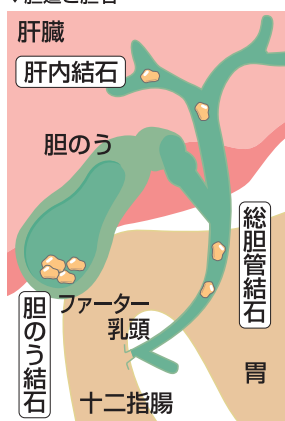
胆石症 について

肝臓から胆汁という消化液が分泌される経路を胆道と呼びますが、そこにいる石を胆石といいますが、胆石は紀元前1500年頃のミイラからも発見されており、古来より人類を苦しめてきた疾患のひとつです。石ができる部位により胆のう結石、総胆管結石、肝内結石に分類されますが、その多くは胆のう結石です。また、最近の総胆管結石の多くは胆のう結石が総胆管に落ちてきたものです。成人の10人に1人は胆石を持つという報告もあり、中年のすこしポッチャリした女性に多いという特徴があります。

胆石の症状は？

胆のう結石の典型的な症状は右上腹部(肋骨の下あたり)の差し込むような強い痛みです。にぶい痛みや吐き気などの軽い症状を繰り返すこともあります。これらの症状は食後1〜2時間くらいでおこる

▼胆道と胆石



白く映っているのが石で、10個以上みられます

▲胆のう結石の超音波画像



消化器内科
早雲 孝信
副院長

ことが多く、胆のうが収縮して胆汁を十二指腸に送り出すタイミングです。結石が胆のうの出口に完全に詰まってしまった場合には、細菌による感染を合併して高熱が出る場合があります。これらの症状は胆石をもっているひと全員に現れるわけではなく、多くの人は無症状のまま経過します。ただ、何時このような症状が現れるかは、まったく予想ができません。それと一度、症状を起こした人は再度、起こす可能性が高くなります。

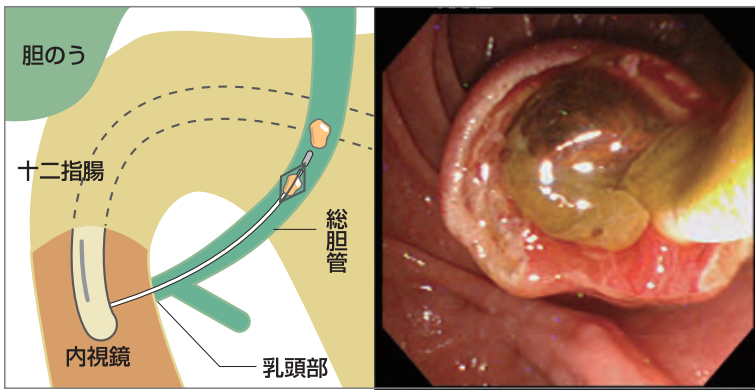
見つけ方と治療法は？

胆石があるかどうかの診断は超音波検査(エコー)が最も簡便で優れています。通常、人間ドックでも行われている検査ですので、検診の普及で無症状のままで見られる人も増えています。胆のう結石の治療は結石の原因となっている胆のうごと取り除く外科手術が一般的で、お腹を

切開せずに小さな穴からカメラや切除器具をいれて行う腹腔鏡下胆のう摘出術が第一選択の治療法です。それでは、どんな場合が治療の適応になるのでしょうか。一般に無症状の場合には経過観察でも良いということになっていますが、何時痛むか解らないのがすごく心配な人には手術を勧めています。また、症状がなくても超音波検査等で胆のうの壁が分厚くなっている人は、癌との区別がつきにくい場合があり手術が必要です。もちろん、有症状の人は手術の適応ですし、急性胆嚢炎をおこした人は手術の絶対適応になります。

総胆管結石って？

総胆管結石とは胆道のなかで総胆管にある石のことをいいます。石が十二指腸への出口のファーター乳頭というところに詰まることにより、みぞおちあたりに激しい痛みをきたします。右肩や背中、胸部に放散することもあり、心筋梗塞等と区別がつきにくいこともあります。痛みと同時に血液検査で肝臓の数値が上昇し、細菌感染を合併することにより急性胆管炎をおこします。胆管炎は先ほどの胆嚢炎より重症化することが多く、早期に適切な治療が行われないと敗血症などを起こして生命に関わります。なかには急性膵炎を引き起こしてくる場合もあります。症状が発現した場合には胆のう結石より重篤になるため、総胆管結石は見つかれば無症状でも治療の適応になります。



切開されたファーター乳頭から結石を取り出しています

1面の続き
 総胆管結石の診断には超音波検査では限界があり、CTやMRIが有用です。治療法ですが、胃カメラのような口からの内視鏡を十二指腸に進めて、ファーター乳頭を電気メスで切開することにより特殊な器具を用いて結石をつかみ出します。外科手術に比べて体への負担が小さいので、この方法が総胆管結石に対する第一選択の治療法になっています。

胆石は、突然に強い症状が出ることも多い病気ですが、今では治療方法も確立されています。当院では緊急の場合も含めて積極的な対応を行っていますので、心配な方はいつでもご相談ください。

緩和ケア外来スタート

呼吸器内科 医長 竹中 かわり (写真中央)

緩和ケアは「がんと診断された時から」「いつでもどこでも切れ目なく」必要とされるケアであり、患者さんとそのご家族のQOLを高めることが目的で、がんの終末期にのみ行うものではないことをご存知でしょうか？

本邦における今までのがん医療の考え方では、「がんを治す」ということに関心が向けられ、患者さんの「つらさ」に対して十分な対応ができていませんでした。しかし、最近では、患者さんがどのように生活していくのかという「療養生活の質」も「がんを治す」と同じように大切と考えられるようになってきています。つまり、根治を目標とする手術・化学療法・放射線治療中、進行を抑制することを目標とした治療中、がんと闘う治療は難しく症状緩和の治療中、いずれの治療とも平行して行われる緩和ケアが「患者さんらしさ」を重視したケアであれば、療養生活の質をよりよいものにしていくことができます。

そのような緩和ケアを提供させて頂くために当院では9月より緩和ケア外来を再編成しました。新システムの外来では一人30分の枠を確保し、医師と看護師が協同して診療し、患者さんの「つらさ」に焦点をあ

てそれを和らげる医療やケアを積極的に行いたいと思っています。完全予約制ですので、受診を希望される患者さんがおられましたら、現在治療中の主治医へお申し出下さい。



◆担当看護師からのメッセージ

緩和ケア認定看護師 中川 純子 (写真左)

がん性疼痛看護認定看護師 山本 直 (写真右)

緩和ケア外来では、疾病を持ちながら地域で療養・社会生活を営む患者さまやご家族様に対し、生活が円滑に送れるよう、生活スタイルに合わせた症状緩和の方法や、自己管理の支援を医師や他職種と連携を取りながらおこないます。

今後の治療・療養について患者さま・ご家族様が大切にしたいと思うことを一緒によりよい療養生活を送れるようにサポートしていきます。

症状や疾病の事だけでなく、生活をする上で気がかりな事、不安に思っている事など気軽に相談頂けるような癒しの空間となるよう心がけていきます。

今回は「母乳育児と黄疸」後期早産児の母乳育児支援について国立病院機構岡山医療センター新生児科の中村和恵先生より講演をいただき、その後「早期に退院が可能な新生児の母乳支援を考える」をテーマに助産師、看護師、産科医、小児科医、薬剤師、栄養士、心理士、理学療法士など他職種でグループワークを行い、思いや気づきを情報共有し、母乳育児支援の幅を広げる意見交換ができました。今後このワークショップの学びを活かして母子に寄り添い母乳育児支援および推進を行い、赤ちゃんがすくすく育ちお母さんが安心して育児ができるようサポートさせていただきます。

7月20日(土)

院内母乳育児ワークショップ開催

高槻病院MFICU 西田 小百合主任



高槻病院は2008年に「赤ちゃんにやさしい病院(BFH・Baby Friendly Hospital)」の認定を受け、妊娠中から退院後まで母乳育児支援に積極的に取り組んでおりその一環として第4回母乳育児ワークショップを開催しました。



吉田耳鼻咽喉科医院
吉田 政雄 先生

正確で迅速な診断による 早期治癒

の研究は、発する言葉つまり声から疾患を判定する、という研究です。具体的には、がんやポリープなどの疾患を判定する研究をしていました。開院してからは耳鼻咽喉科全般にわたって診断や治療をしています。

■ 当院の特徴

当院では正確で迅速な診断に努めています。一旦、様子を見ましようという経過観察はせず、疾患を早期に見つけてできる限り早く治癒することを目標としています。耳鼻科症状の根幹には実は別の疾患が隠れていることがあり、その根幹にある疾患を見逃さないようにしています。以前も当院へ中耳炎で来られた患者さまを高槻病院へ紹介したところ、実は肺炎を患っていたことがありました。

開院の経緯

大阪医科大学を卒業後に、耳鼻咽喉科医局に入り、専門医、助手、講師を経験しました。大阪医科大学出身だったので、「開院するならばやはり高槻で開院しよう」と考えていました。そして昭和58年に西武百貨店の前に開院しました。10年程前からは現在の場所へ移り、診療しています。

■ 専門分野

大阪医科大学の耳鼻咽喉科では、「音声、言語」に関する研究グループに属し、音声学者の先生の指導で、主に音声や言語に関する研究をしていました。この分野

私が特に治療に力を入れていた疾患は第一に、アレルギー性鼻炎を中心とするアレルギー疾患です。高槻病院では小児科でアレルギーの専門外来をされているので、より大きな病院での治療が必要な患者さまは高槻病院へ紹介させていただいています。そして第二に、難聴、耳鳴り、めまいです。これらの疾患の確な診断と治療に力を入れています。最近特に多く見られる蝸牛型内リンパ水腫や、多様な耳管疾患の診断にも力を入れています。

アレルギー性鼻炎は昭和50年代から増加してきていますが、それまではあまり聞き慣れない疾患でした。時代の変化と共に、疾患も流行り廃りがあります。これまでの知識だけでは治療する上

で不十分な場合もあります。めまぐるしく変化していく医学に対応できるように、治療にあたる医療従事者として新たな知識を積極的に身につけていくようにしています。

さらに、当院では患者さまの負担軽減になるよう、インターネット予約の実施を近日中午に予定しています。疾患によって診察時間が異なるので、具体的な時間を指定しての予約ではなく、午前、午後の予約で受け付けます。

■ 高槻病院への要望

高槻病院は時間外も含めて急な診察依頼もスムーズに受け入れてくれているので助かっています。どこかの開業医においても、安心して診療できるかどうかは病院との病診連携が確立されているかどうか、であると考えています。その意味で、高槻病院と開業医との病診連携の関係性は理想的なものだと思います。今後変わらぬこの体制でいてほしいです。

吉田先生、お忙しい中ありがとうございます。いつも「いりょうのひろば」をこ愛読いただいているそうで、インタビューさせていただくことが



でき栄光でした。質問に対する答えや一つ一つのお話を丁寧にしてくださり、患者さまに対しても丁寧な診療をされているのだということを感じ取りました。疾患の早期発見と迅速な治療によって少しでも早い治癒に努めておられ、患者さまの負担軽減を常に配慮しておられることが伝わってきました。吉田先生より高槻病院のお褒めの言葉をいただきましたが、これに甘んじることなく、今後も先生からの依頼にお応えし、よりよい病診連携に努めてまいりたいと思います。

地域医療部 村上・酒本

吉田耳鼻咽喉科医院

〒569-1117
高槻市天神町1丁目9-20(JYビル2階)
TEL.072-685-3387

【診療内容】耳鼻咽喉科
【診療時間】午前10時～1時 午後4時～7時
※木曜日は午後5時～7時、土曜日は午前10時～2時

	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	×	○	○
午後	○	○	○	○	○	×

休診日/木曜の午前、土曜の午後、日・祝



ご意見箱 Q&A

Q 次回の外来で日帰り手術をする予定となりました。事前に支払いのおおよその金額を教えてください。また、内視鏡検査やCT、MRIなどの検査についても予約が入った段階で支払う金額を教えてください。出来ませんか？



A 本来であれば日帰り手術が決まった際にご案内すべきところでした。申し訳ございません。今後は、各診療科の事務職員から概算案内をさせて頂くよう徹底します。各種検査におきましても概算の案内をさせていただくことは可能です、ご希望がございましたら遠慮なく申し付け下さい。しかしながら、例えば、内科ですと、内視鏡検査の際に、急遽、ポリープ切除に至るケースもあり予定外の手術になる場合もあり、事前にお伝えしていた金額とは異なる場合もございますので治療内容によっては事前のご案内とお会計が異なることがあることをご了承ください。

— 8月24日(土) —

第2回 愛仁会グループ リハビリテーション部門学術大会を開催して

リハビリテーション科 科長 小杉 正



この大会はリハビリテーション部門の業務・学術面の情報共有を図り、連携強化につなげることを大会開催のねらいとして昨年より始まりました。

今回のメインテーマは「医療・介護の質の向上を図る」であり、基調講演と演題発表を行いました。基調講演は医療法人社団輝生会理事長石川誠先生をお招きし、「リハビリテーション医療の変遷と質の向上」をテーマに講演いただきました。我々が再認識することができ、各施設でリハビリテーション医療に取り組んでいる職員にとっては、大きな励みと教訓になったと思います。

演題発表では各施設より9演題の発表があり、大会を通じて各施設のセラピストが研究に対する興味を深め、各施設の特徴を示すことができた意義ある大会となりました。

この大会で得た知識にさらに研鑽を積み、より質の高いリハビリテーション医療を患者さまに提供していきたいと思っています。

この大会はリハビリテーション部門の業務・学術面の情報共有を図り、連携強化につなげることを大会開催のねらいとして昨年より始まりました。

今回のメインテーマは「医療・介護の質の向上を図る」であり、基調講演と演題発表を行いました。基調講演は医療法人社団輝生会理事長石川誠先生をお招きし、「リハビリテーション医療の変遷と質の向上」をテーマに講演いただきました。我々が再認識することができ、各施設でリハビリテーション医療に取り組んでいる職員にとっては、大きな励みと教訓になったと思います。

演題発表では各施設より9演題の発表があり、大会を通じて各施設のセラピストが研究に対する興味を深め、各施設の特徴を示すことができた意義ある大会となりました。

この大会で得た知識にさらに研鑽を積み、より質の高いリハビリテーション医療を患者さまに提供していきたいと思っています。

8月22日(木)

第12回 高槻病院救急隊員勉強会開催報告

副院長 高岡 秀幸

この勉強会は救急隊員と当院職員が救急医療について、よりスムーズな連携と相互理解を深める事を目的に年2回開催しています。

今回は「成人の意識障害」をテーマに1部は脳神経外科部長の砂田医師による講演で意識障害の予測される様々な疾患や、病院到着前における救急活動の基本や観察すべき項目などをわかりやすく説明をしました。

2部は過去に意識障害で実際に搬送された患者さまの症例を基に検討を行いました。1例目は「高齢者の意識障害」、2例目に「けいれん発作」について検討を行いました。

この検討は救急隊員の方にとっては搬送後の処置や入院経過について知る機会でもあり、当院職員にとっては病院前救護を知る機会であり、お互いの救急医療活動に大変有用なものとなりました。

また最後に、脳神経外科の井阪部長が「脳血管疾患患者は当院かかりつけでなくとも当院に搬送して下さい!」と決意表明をした事で、救急隊員の方から「安心して脳疾患患者を搬送できるとわかり心強く思います」との感想を頂けました。

今後も、救急隊員の方とのさらなる交流・連携を深め、地域の救急医療に貢献して参りたいと思っています。



▼ギャラリー8月

8月の庭園ギャラリーは、みなさんの心に笑顔のひまわりを咲かせたいと願いを込めた「ひまわり畑」。太陽に向かってまっすぐに伸びるひまわりの花、夏の花の代表です。あの黄色い大輪のひまわりの花々に、元気もらったというお声をたくさん頂きました。



そして、9月の庭園ギャラリーは「夏祭り」。地元のお祭りや全国的に有名なお祭りと沢山ありますが、皆さんは楽しめましたか。金魚すくい、ヨーヨーつり、半被・浴衣姿で盆踊り。子ども大人と関係なく楽しめる素敵なイベントですね。

9月に入りましたが、夏の疲れが出やすい時期です。体調管理に気をつけて、残暑を乗り切りましょう。



▲ギャラリー9月

庭園ギャラリー

看護部広報委員会
岩永直美

社会医療法人
愛仁会

高槻病院

■高槻病院の理念 「患者さまの満足する医療」

■患者さまの権利

1. 患者さま個人の人格や価値観が尊重され、医療者との信頼関係の下で、良質で安全、公正な医療を適切に受ける権利があります。
2. 病気の診断・治療・予後などに関して、その効果や危険性、または他の方法の有無について、理解できるようにわかりやすい説明を受ける権利があります。
3. 理解できるわかりやすい説明を受けたのち、検査の諸否や治療法の選択などについて自分で決定する権利があります。

■患者さまの責務

1. 患者さま自らの健康状態に関する情報をできるだけ正確に医療者に伝える責務があります。
2. 病気の診断・治療・予後などに関して、理解できるまで質問をする責務があります。
3. すべての患者さまが良質で安全な医療を適切に受けることができるように、他の患者さまの診療や病院の医療提供に支障をきたさないように配慮する責務があります。

千船病院 大阪市西淀川区佃2丁目2番45号 ☎06-6471-9541
 愛仁会リハビリテーション病院 高槻市白梅町5-7 ☎072-683-1212
 介護老人保健施設「ケアアイ」高槻市大字原112番地 ☎072-687-0103
 介護老人保健施設「ユアアイ」大阪市西淀川区佃2丁目2番58号 ☎06-6471-5236
 ケアプランセンターケアアイ 高槻市大字原112番地 ☎072-687-0303
 訪問看護ステーション「ほほえみ」大阪市西淀川区大和田3丁目8番17号 ☎06-6471-3121
 高槻北地域包括支援センター 高槻市大字原112番地 ☎072-687-0303
 愛仁会看護助産専門学校 古曽部町1-3-33 ☎072-681-6031
 愛仁会 高槻在宅サービスセンター 高槻市白梅町5-7 ☎072-686-1883
 「ケアプランセンター愛仁会高槻」「訪問看護ステーション愛仁会高槻」「ヘルパーステーション愛仁会高槻」
 おかじま病院 大阪市大正区南恩加島5-4-1 ☎06-6551-0848
 介護付有料老人ホーム スローライフおかじま 大阪市大正区南恩加島5-4-5 ☎06-6556-1080